

いつか読む? 積ん読の魅力



先達によると、読書には「朗読」「目読(黙読)」、そして「積ん読」がある。積ん読とは、手元の本を読まず、積んだままにしていることをいう。眉をひそめる人もあろうが、山と積まれた未読の書籍に至福を感じる人も少なくない。そんな積ん読派に、魅力や「絶対に読む本」「多分読む本」などを聞いた。

(須田絢一、鈴木博幸)

いわき湯本温泉古滝屋 いなもので、近くにあると(いわき市)の館主里見喜安心すると、積ん読が増生さん(56)は約3年前、ロえる一方の里見さん。昨年ビラウンジの壁一面に巨はこのラウンジで積ん読大な本棚を設置し、自分ののイベントを開き、参加本を置いた。郷土を紹介するにそれぞれ持ち寄ったる本のほか、旅や映画、食、本を読んでもらい、感想を哲学、保護動物についてなど、言い合ってもらったといどジャンルは多彩だ。「本う。」

「今年は積ん読を減らすもあると、お客さまとの話の目標」と決意を語る。ケージのツールとして「本を読む時間は仕事など別の用事に奪われてしまいがち。今年は朝に読書する本棚には、まだ読んでいない本もたくさん並べていきたい」と笑顔で話している。「本は家族みした。

「今年は読む時間を意識してつくっていききたい」と話す里見さん。いわき市・いわき湯本温泉古滝屋

※ワークシート「深める・広める」②③に続きます

▲ 2月4日 福島民友新聞掲載

記事から知り得たこと

調べてわかったこと、考えたこと (330字程度)

疑問に思ったこと、調べてみたいこと

3人の方の本への思い、それぞれに考えさせられますね。

あなたは「何読」派ですか?

